

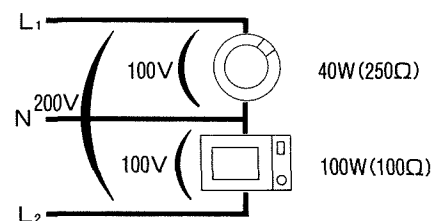
単3中性線欠相保護付漏電遮断器

最近、家庭においても使用される電気製品の数も増え、平均使用電力量も増加しています。

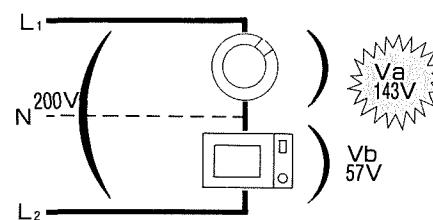
単相3線式回路において中性線が何らかの原因で欠相状態になりますと、その回路の負荷状態において電圧が不平衡となり負荷機器に過電圧が加わり負荷機器の焼損、絶縁劣化などの事故を生ずることがあります。このような状況の中で開発されたのが、テンパールの単3中性線欠相保護付漏電遮断器です。

中性線欠相

例えば、図の様に、中性線欠相が起った場合100Wの負荷機器に57V、40Wの負荷機器に143Vの過電圧が加わることになります。この過電圧により負荷機器の寿命が短くなったり焼損してしまいます。

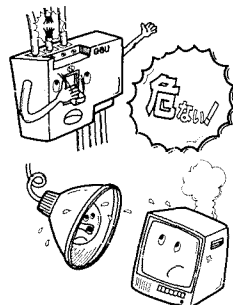


中性線欠相



$$V_a = 200 \times \frac{250}{100 + 250} = 143V$$

$$V_b = 200 \times \frac{100}{100 + 250} = 57V$$



テンパールの単3中性線欠相保護付漏電遮断器は過電圧に対し125V±5V、0.5秒以内に確実に動作し負荷機器を保護します。

1975
昭和50年開発以来、
数多くの販売実績を持つ
テンパールのGBUシリーズ。



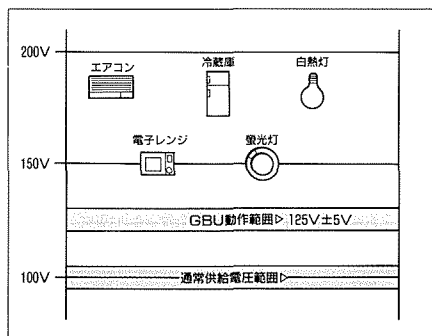
75電設工業展製品コンクール
東京電力株式会社賞受賞

全日本電気工業工業組合連合会
推奨品

過電圧による負荷機器への影響

図は過電圧により負荷機器が焼損、絶縁劣化、寿命が短くなる等影響がでる電圧を表わしています。(参考)

GBU(単3中性線欠相保護付)は125V±5Vの過電圧で0.5秒以内に遮断しますので負荷機器を過電圧事故から確実に保護します。

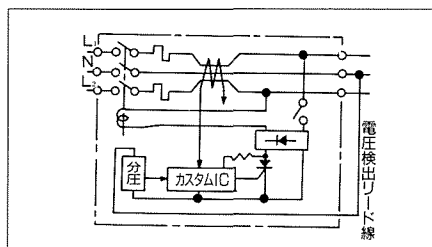


(1秒間過電圧を印加した場合の実験値でメーカー、種類により異なります。)

動作概要

中性線欠相により発生した過電圧を中極に接続された分圧回路でピックアップし、カスタムIC内の過電圧検出ブロック内で検出します。その信号を論理回路を経由させ遮断器の引外し用トリップコイルを働かせます。

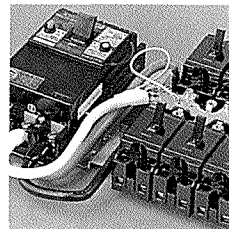
漏電保護機能と過電圧保護機能の回路はカスタムIC内に組込まれ動作の確実性、安定化をはかっています。



電圧検出リード線

電圧検出リード線を遮断器外部に引出した仕様で負荷側の中性極に接続することにより検出範囲の拡大をはかるものです。

中性線欠相が起りうる可能性がある接点、ターミナル部、接続部などの負荷側に電圧検出リード線を接続しますと接続した箇所より電源側の中性線欠相による過電圧保護が可能となります。



電線接続の端子ネジ等は確実に締付けてください。

絶縁測定について

過電圧検出の回路構成上、絶縁測定に際しご注意ください。遮断器に貼ってあります注意シールにもとづき絶縁測定してください。



(左写真の場合)
相間の絶縁測定をされる時は電圧検出リード線を外してください。大地間の絶縁測定の場合は外す必要はありません。

テンパールの分電盤は、
漏電遮断器が組込みの場合、
単3中性線欠相保護付が標準仕様です。

● 単3用の分電盤は除く ● 住宅用分電盤 ● 標準分電盤(電圧検出用)

